

## ALOS/AVNIR-2 画像を利用した災害状況把握

## Identification of damaged sites by Noto Hanto Earthquake using ALOS/AVNIR-2 imagery

# 北原 敏夫 [1]; 塩見 和弘 [1]

# toshio kitahara[1]; Kazuhiro Shiomi[1]

[1] なし

[1] none

ALOS/AVNIR-2 観測データから得られた画像を基に地震による被災箇所の判読を行い、被災規模による判読可能性について考察を行った。雲の影響がない地域の判読結果は、明瞭 - 11 箇所、やや不明瞭 - 12 箇所であった。明瞭に判読できたものの災害の種類は崩壊地 10 箇所、河道閉塞 1 箇所、いずれも土砂の移動を伴う大規模な変状であった。

ALOS/AVNIR-2 は、解像度が 10m とされている。解像度の 2 倍を超える範囲で地形変化が見られた箇所の判読は可能であった。また、土砂移動を伴う斜面崩壊などの変状はある程度把握できたが、建物倒壊など移動の少ない変状は判読できなかった。